

明治神宮外苑創建九十五年記念
第五十二回明治神宮野球大会
新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン

【基本方針】

チーム関係者は試合、移動等にあたって、新型コロナウイルス感染症防止対策の基本となるソーシャルディスタンスを確保すること、密接・密集を避けること、マスクを着用すること等を常に意識しながら行動することとする。

【観戦について】

原則、有観客試合とし、収容人数の上限については政府からのイベント開催制限に準ずることとする。

【球場に入る際の感染予防対策】

(1) チーム関係者

- ①大会前に大会事務局が指定する PCR 検査を実施する。
- ②「健康チェックシート表（チーム用）」（別紙 1）を試合当日、大会本部に提出する。
ただし、起床直後および出発前に検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。
また、同チェックシートの質問 3 項目のいずれかに「有」とチェックがあった者の球場への入場可否は大会本部がチーム責任者と協議して判断する。
- ③入口にサーモグラフィーを設置し、体温が 37.5 度以上と反応があった場合は非接触型体温計で再検温をする。非接触型体温計の再検温でなお 37.5 度以上の場合は、接触型体温計で再々検温をする。入場時は毎回検温を実施するが、1 日毎に初回検温時には ID に指定のシールを貼付する。
- ④関係者受付（入口）で消毒液による手指消毒を行う。
- ⑤マスク着用を必須とする。

(2) 大会関係者

- ①新型コロナウイルスワクチン 2 回目の接種済証（来場日時時点で 14 日経過している証明書）、もしくは PCR 検査において陰性が証明されるもの（来場日 72 時間以内（3 日前）に検体採取が記録されている）を事前に大会事務局へ提出する。
- ②①を事前に提出したうえで、来場時に関係者受付（入口）で検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。
また、「健康チェックシート表（大会関係者）」に必須事項を記載し、同チェックシートの質問 3 項目のいずれかに「有」とチェックがあった者については、大会本部が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。

- ③関係者入口にサーモグラフィーを設置し、体温が 37.5 度以上と反応があった場合は非接触型体温計で再検温をする。非接触型体温計の再検温でなお 37.5 度以上の場合は、接触型体温計で再々検温する。入場時は毎回検温を実施するが、1 日毎に初回検温時には ID に指定のシールを貼付する。
- ④消毒、マスク着用は、上記(1)と同様とする。

(3)報道関係者

- ①報道受付で検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。また、「健康チェックシート表(報道関係者)」に必要事項を記載し、同チェックシートの質問 3 項目のいずれかに「有」とチェックがあった者については、大会本部が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。
- ②関係者入口にサーモグラフィーを設置し、体温が 37.5 度以上と反応があった場合は非接触型体温計で再検温をする。非接触型体温計の再検温でなお 37.5 度以上の場合は、接触型体温計で再々検温をする。入場時は毎回検温を実施するが、1 日毎に初回検温時には ID に指定のシールを貼付する。
- ③消毒、マスク着用は、上記(1)と同様とする。

(4)観客・スタンド観戦者

- ①以下の事項に該当する場合は入場をお断りする。
 - (i) 過去 1 週間以内から現在までに体温 37.5 度以上（球場入口通過時にサーモグラフィーで体温検査実施）、強い倦怠感、感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）、味覚・嗅覚異常などの異変がある場合を含む体調不良のある者。
 - (ii) PCR 検査陽性歴があり、(1)有症状者では、発症日から 10 日未満、かつ、症状軽快後 72 時間以内 (2)症状軽快後 24 時間経過から 24 時間以上の間隔をあけ、2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない、または(3)無症状病原体保有者では、陰性確認から 10 日未満 (4)検体採取日から 6 日間経過後、24 時間以上の間隔をあけ 2 回の PCR 検査陰性を確認できていない
 - (iii) 濃厚接触者として自宅待機中
 - ※濃厚接触者：患者(確定例)の感染可能期間に接触した者。なお、濃厚接触者の指定は該当者の居住区、市の保健所が判断する。
 - (iv) 家族が濃厚接触者として自宅待機中
 - (v) 家族に (i) におけるいずれかの体調不良がある
 - (vi) 海外から帰国(日本に入国)して 14 日未満
 - (vii) マスク非着用の者
- ②各入場口にサーモグラフィーを設置し、体温が 37.5 度以上と反応があった場合は非接触型体温計で再検温する。非接触型体温計の再検温でなお 37.5 度以上の場合は、接触型体温計で再々検温をする。
- ③球場入口で消毒液による手指消毒を行う。

- ④マスク着用を必須とする。忘れた場合や破損している場合は購入を促す。
- ⑤観客同士の接触を極力避けるよう動線を工夫する。

【チーム関係者の感染予防策】

監督、コーチは新型コロナウイルス感染症防止対策を念頭に置きながら選手を指導することとする。

(1)球場への移動

- ①選手は原則、チームバスを使用する。
- ②その他の部員は第三者との濃厚接触を回避するため、公共交通機関を利用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるように注意する。
- ③移動中は、マスク着用を必須とする。

(2)合宿所・宿泊施設

- ①宿泊はシングルルームの使用で同一フロアが望ましい。
- ②起床直後と出発前の検温を行う。
- ③食事は、ビュッフェスタイルを避け、隣同士との距離を空け、黙食を心がける。
- ④ミーティングを行う場合は、隣同士との距離を空ける。
- ⑤不要な外出は行わず、外出時はマスクを着用する。
- ⑥外部との接触(面会)は極力避ける。
- ⑦部屋間の移動は極力避ける。

(3)試合前後の流れ

- ①ベンチ裏などでは、チーム全体でのミーティング、長時間の滞在を避ける。
- ②球場内では外部者(家族等も含む)との接触を避ける。
- ③消毒液をダッグアウト・選手控え室に配置し、適宜消毒を行う。
- ④球場外およびグラウンドでのウォーミングアップ時のマスク着用は必須としない。
中通路内ではマスクを着用する。

第1試合

【試合前】

- ・球場到着後、バスを正面(7入口)につけ、選手は降車する。
- ・降車後はロッカーに寄らず直接ベンチ又はベンチ裏に入る。
- ・喫食する場合は長時間の滞在を避けたうえでベンチ裏のスペースを使用する。
- ・グラウンドインは4試合行う場合は7:00、3試合もしくは2試合行う場合は8:30とする。

【試合後】

- ・ベンチ又はベンチ裏にある道具は直ちにグラウンド上に出す。
- ・取材はすべてオンラインとし、順番に関しては、「敗戦チーム」から「勝利チーム」の順で行うこととする。取材対象者は監督と指名選手2名の3名までとし、大会本部指定の場所で行う。
- ・チームのバス・荷物車はゴルフ駐車場(出場校の手引き P.21 参照)にて待機する。
- ・選手は必要な道具を持ち、グラウンド内から13入口(レフト側ゲート)に向かい、直接バスに移動する。
- ・着替えを行う場合は車中、もしくは駐車場スペースにて速やかに行う。

第2試合以降

【試合前】

- ・神宮球場到着後、バスは正面入口から入り、16入口(センター)につけ選手は降車する。
- ・到着後、それぞれの外野の指定された待機スペースに移動する。
- ・ウォーミングアップを行う際は、ライト側「1入口」からレフト側「13入口」外野アーケードにて行う。ただし、個人でバラバラと移動してのアップやスタンドへの入場(観戦)、外部との接触は禁止とする。
- ・第1試合終了後、外部との接触を避けるために外野の指定ゲート(1塁側チームはライト側、3塁側チームはレフト側)からグラウンドに入る。
- ・グラウンドイン後は荷物をグラウンド上に置いて外野でウォーミングアップを行う。
- ・前の試合のチームが退場後、ベンチに荷物を入れキャッチボールを開始する。
- ・試合間は原則25分間とする。

【試合後】

- ・第1試合の流れと同様とする。

(4)試合中

後記【試合について】に記載する。

【大会関係者の感染予防策】

- (1)本部席、審判控室、記録室、放送室は使用する者が定期的に換気する。
- (2)各諸室、関係者トイレには消毒液を配置し、消毒や手洗いを徹底する。
- (3)球場内は、マスク着用を必須とする。
- (4)座席の間隔を一定の距離に保つ。
- (5)不要不急の外出、外食を避ける。
- (6)グラウンドや記者席への移動は業務上必要のある者(赤色ID着用者)のみとし、その他の関係者の移動は禁止とする。

【報道関係者の感染予防策】

- (1)記者席では、使用するものが定期的に換気する。座席の間隔は、一定の距離を保つ。
- (2)各社最大来場人数は5名までとし、記者席に入室出来る人数は各社2名までとする。
記者室に入場できない場合は大会事務局が定める場所（2階席区画エリア）にて作業を行うものとする。
- (3)カメラマン席に入室出来る人数は各社1名のみとし、入退席の移動は観客席からのみとする。
- (4)記者席には、消毒液を配置し、消毒や手洗いを徹底する。
- (5)球場内は、常時マスク着用を必須とする。
- (6)チームへの取材はすべてオンラインとし、対面取材は禁止とする。順番は、勝敗に関係なく「敗戦チーム」から、「勝利チーム」の順番で行うこととする。
- (7)チーム関係者への取材は、取材対象者を事前に大会本部に通知(監督・指名選手2名以内)する。時間については両チームともに10分とする。
- (8)中継各社のスタッフについては必要最低限の人数(要相談)とする。
- (9)学生新聞等の学内団体については、各団体の人数を1名のみとし、取材エリアは1・3塁側の雑協席のみとする。ぶらさがり取材、囲み取材は禁止する。

【観客(スタンド観戦者)の感染予防策・注意喚起・要請】

- (1)観客の座席は1m以上離すこととする。
また、客席で大声をだすこと、太鼓等の鳴り物を使うこと、応援歌の合唱、およびエールを送ること等を禁止する。
- (2)放送やビジョンを用いて頻繁なマスクの着用勧告
- (3)緊急時の連絡先としてメールアドレスの提供(特設のURLを作成し、QRコードを配布)をお願いする。
- (4)座席番号の記録を呼びかける(席をスマートフォン等のカメラに記録するように促す案内、座席の撮影、座席番号のメモ保存等)
- (5)一度お座りになられた座席からの移動はご遠慮いただく。
- (6)感染者との接触を通知する「接触確認アプリ COCOA」の導入を促す。
- (7)感染防止のための行動制限(回遊制限、規制退場、応援制限、飲食販売制限等)への理解を促す。
- (8)感染が判明した場合及び濃厚接触者と指定された場合への大会本部指定の連絡先への連絡協力を促す。
- (9)感染が判明した場合、対象座席番号の情報をHP等で公表し連絡する(自治体及び保健所との協議の上、感染拡大が懸念される場合に保健所との協議で陽性感染者の座席情報と近隣座席購入者への連絡実施等)
- (10)試合後に使用したエリアの手すりやトイレ等の共用部分の消毒を行う。
- (11)球場内のトイレにも消毒液を用意し、手洗い励行を喚起する。
- (12)ファウルボールの回収は部員及び球場スタッフが行う。

【応援団による応援行為の禁止】

本大会では、応援団による応援行為および応援グッズを使用しての応援、組織的な応援行為は禁止とする。

また、部員やチーム関係者による応援グッズの持込みおよび販売行為も一切禁止とする。

【試合について】

試合開始及び試合終了時、ホームベースをはさんで2m以上の間隔をあけて両チームが向き合って整列し、挨拶を行うこととする。

(1) 審判員

① 球審

マスクの着用、または球審用マスクシールドを装着する。

② 塁審

マスクの着用を必須とする。

(2) チーム関係者

① ダッグアウト内では選手同士の間隔の確保に努める。

② ブルペン控室はファウルグラウンド上(プロ野球に準ずる)に設置する。

③ ダッグアウト内では原則マスク着用を必須とする。

出場している選手、控え選手及び監督・助監督・コーチ等のスタッフ(ベースコーチ含む)、ボールボーイ、打球監視員も同様とする。

④ 素手でのハイタッチ、握手及びメガホンの使用等を禁止する。

⑤ 試合中、唾を吐く行為、手を舐める行為は禁止する。

⑥ 試合前やイニング間の円陣は一定の間隔を保つ。

⑦ 投手交代等でマウンドに集まる場合、出来るだけ選手、監督(コーチ含む)との間隔をとり、可能な限り接触を避ける。

⑧ 投手用のロジンバッグは、チーム毎に入れ替えて同じものを使用しない。

⑨ スポーツドリンク等の回しのみは禁止する。

⑩ ファンとの接触(握手、サイン等)は禁止する。

⑪ 取材を受ける場合は大会本部の指示に従い2m以上の距離を保つ。

(3) 大会本部、球場関係者

① マスクの着用を必須とする。

② 使用する諸室等の消毒は徹底する。

【大会前 PCR 検査】

大会関係者、代表校関係者に対して、大会前に PCR 検査を実施する。

【感染者、感染が疑われる者が発生した時の対応】

【大会関係者、代表校関係者】

〈大会前検査を実施する前に発生した場合〉

- ①大会関係者の場合は当該者が、代表校関係者の場合は責任教師・主務が直ちに大会事務局へ連絡し状況の報告を行う。
- ②医療機関を受診のうえ所管保健所の指示に従い、その他の対応は大会本部で協議する。

〈大会前 PCR 検査で判明した場合〉

- ①大会本部は検査機関から連絡を受け次第、直ちに責任教師・主務へ連絡する。
- ②連絡を受けた者は学校へ連絡するとともに感染が疑われる者を医療機関で受診させ、医療機関から所管保健所へ連絡し、所管保健所からその後の対応について指示を受ける。
- ③大会本部は当該校が受けた保健所の指示をもとに、対応について当該校と協議する。
- ④大会本部は当該校の大会出場に関して、保健所の指示のもとに、以下の【代表校の大会参加可否の判断基準】を適用して対応を協議する。

〈大会前検査後、試合当日までの間に発生した場合〉

- ①大会本部は当該校から状況を確認し、意向を踏まえ、以下の【代表校の大会参加可否の判断基準】を適用して当該校の大会参加可否を決定する。

〈大会中に発生した場合〉

- ①大会関係者の場合は当該者が、代表校関係者の場合は責任教師・主務が直ちに大会本部へ連絡し、状況の報告を行う。
- ②医療機関を受診の上、所管保健所の指示に従い、その他の対応は大会本部で協議する。
- ③大会本部は当該校の大会出場に関して、所管保健所の指示をもとに、以下の【代表校の大会参加可否の判断基準】を適用して、当該校の大会参加可否を協議する。

【代表校の大会参加可否の判断基準】

- (1)代表校から感染者ならびに感染の疑われる者が判明した場合、大会本部で協議のうえ対応を決定する。
- (2)大会本部は当該校の大会参加について協議および対応を決定するにあたり、以下の事項を総合的に判断する。なお判断にあたっては、チーム内(宿舍入りしている代表校関係者)での集団感染が疑われるか否かを重要視するものとする。

- ・感染人数、感染が疑われる者の人数(濃厚接触者)
 - ・感染者、感染が疑われる者とそれ以外の再検査の結果
 - ・感染経路
 - ・感染者、感染が疑われる者とそれ以外の代表校関係者の接触状況
 - ・その他
- (3)大会本部がチーム内での集団感染ではなく個別の事案と判断した場合、チームの当該試合開始予定時刻の2時間前までは当該選手を入れ替えるなど対応をすることとし、代表校の大会参加を差し止めることはしない。
- (4)大会本部がチーム内での集団感染と判断し、チームとして大会出場が出来なくなった場合代表校の差し替えなどはしない。

【大会終了後の健康観察】

大会関係者、代表校関係者は大会を終えた後、14日間以内に新型コロナウイルスに感染した場合、あるいは感染が疑われた場合は速やかに大会本部へ書面にて報告する。

【緊急事態宣言等が発令された場合の対応】

政府や東京都から、緊急事態宣言に伴うイベント等の自粛要請が出された場合は、大会本部が協議のうえ、決定する。

【その他】

本ガイドラインは、今後の感染状況や政府、行政からの指針をもとに内容を変更する場合がある。

以上